

ここまで進んだ 最新医療

日々、進化する医療技術。新たな技術が確立するたび、悩める人が救われ、病気を一つ乗り越えることができる。ここでは、そんな最新医療を紹介する。

01

生物学的製剤

有効率は80%以上

関節が変形するリウマチ発症要因も少しずつ解明

関節リウマチは免疫作用に異常が起き、自分自身の組織を攻撃してしまう病気です。30〜50歳の女性に多く発症することが分かっており、その比率は男女比1対3〜4といわれています。発症すると、関節に炎症が起き、腫れてしまうのが特徴的な症状です。そのまま放っておくと、症状は悪化し関節が変形し、歩けなくなる患者もいます。

関節の症状が出やすいのは手の二指から五指が91%、母指が78%、肩が65%、膝が64%。多関節に症状が出るのも特徴です。しかしそれ以外にも関節のこわばりや、疲労感、だるさ、微熱、食欲不振などの全身症状も現れます。

以前はその発症要因は知られていませんでしたが、今ではリウマチ因子や抗CCP抗体などを持った人が、喫煙や歯周病、

腸の炎症などに誘発され発症することが分かっています。また炎症性サイトカインが過剰に作り出されてしまうことで、症状がさらに悪化していきます。

かつては抗炎症剤やステロイド剤により痛みを軽減させるための治療が中心でしたが、1990年以降は好成績を収める薬剤が多数開発。2010年以降関節リウマチのガイドラインが設けられ、治療や検査体制が飛躍的に進歩しています。原則として発症から2年以内に早期発見し、治療を開始すれば寛解も期待できます。

その治療法の軸となっているのが抗リウマチ剤と生物学的製剤です。抗リウマチ剤で代表的なのは「リウマトレックス（メトレート）」で、関節の痛みと腫れを抑え、長期的には関節の破壊を予防することができます。

抗リウマチ剤の効果さほど見られないと判断されると、生



手術前 手術後5週間
変形が進んだ患者には変形矯正手術を実施

かつては原因も分からなかったリウマチ。抗リウマチ剤と生物学的製剤を軸にした最新治療では高い有効率を誇っている。

滑膜の中のどの細胞がどのようなサイトカインを産生するかによって薬剤を使い分ける治療法も始まっており、今後は患者ごとの治療が進むでしょう。

また変形が進んでいるケースに対して当院では、人工関節のほかに関節温存手術を実施するなど外科的治療でも最新治療を取り入れています。

生物学的製剤の投与を推奨します。現在7剤開発されており、症状の程度などにより選択して投与します。抗リウマチ剤の有効率が約40%なのに対し、生物学的製剤の有効率は80%以上と高く、また効果の発現が投与後2週間と速効性があるのも特徴です。ただし劇的な改善が見込める分、副作用も強いのが懸念事項です。感染の悪化、肺炎や肝炎、結核などを引き起こすこともあり、投与後の体調管理が欠かせません。そのため当院では4人のリウマチ専門医による治療と提携する医療機関での受診などを実施しています。最近では、

お話しを伺ったドクター



北海道整形外科記念病院
理事・副院長
鈴木 孝治氏

1983年北海道大学医学部卒業、91～94年ニューヨーク留学、2001年北海道整形外科記念病院診療部長、15年より現職